

寄港地におけるクルーズ船客の観光行動と観光の満足度に関する研究 ～金沢港に寄港したクルーズ船を対象として～

金沢大学 学生会員 ○二羽遼太郎
金沢大学 正会員 藤生慎
金沢大学 フェロー 高山純一

1. はじめに

近年、我が国ではクルーズ観光が注目されている。2017 年の我が国への訪日クルーズ旅客数は、前年比 27.0%増の約 252.9 万人となった¹⁾。しかし近年の推移を見ると、訪日クルーズ旅客数(図-1)は堅調に増加している一方で、日本人クルーズ人口(図-2)は依然として利用者の伸びが低いことが分かる。今後もクルーズ観光が発展していく上では、日本人観光者の動態を把握することは必要不可欠である。しかし寄港地における観光行動が観光の満足度に与える影響について明らかにした事例はない。そこで本研究では、寄港地における観光行動について、観光地での滞在時間に着目し、GPS ロガーによる観光行動の分析を行った。同時にアンケートによる意識調査を行い、これらの現状把握ならびにクルーズ振興策の提案を試みる。

2. 調査概要

本研究は、金沢港に寄港するクルーズ船を対象に調査を実施した。金沢港はクルーズ船の寄港回数が伸びており、2016 年度より発着型クルーズが開始するなど、今後日本海側のクルーズ拠点港としての期待度が高い。2018 年 5 月～11 月間で計 7 回の調査を実施し、得られたデータ数は GPS ロガーが 92 サンプル、アンケートが 87 サンプルである。

3. 分析結果

(1) GPS データの集計結果

クルーズ船客の観光行動を把握するにあたり、各観光地における滞在時間の長さに注目した。ここで、観光地の規模は様々であるため、ArcGIS を用いて GPS で計測されたプロット間の距離を測定し、観光地内での移動距離を算出した。また、GPS データより観光地での滞在時間を算出し移動距離で除することで、単位距離当たりの滞在時間を作成し、滞在の程度

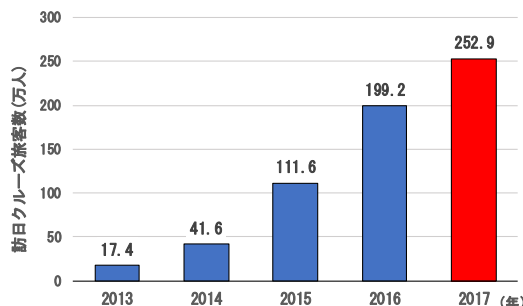


図-1 我が国へのクルーズ寄港回数の推移²⁾

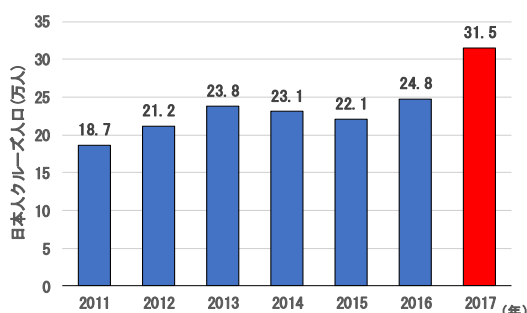


図-2 日本人クルーズ人口の推移²⁾

の指標とした。この指標を用いて、時刻と訪れる観光地での滞在時間の関係を分析する。クルーズ観光は船の停泊時間により寄港地での観光時間が制限されるため、出港時刻が近づくにつれて、港へ移動しやすい金沢駅付近での観光をするのではないかと仮定し、金沢駅から徒歩圏内と考えられる観光地(近江町市場、ひがし茶屋街)と徒歩圏外と考えられる観光地(それ以外)で分類し比較分析を行った。図-3 より、金沢駅に近い観光地では 10 時台から 14 時以降までゆっくりと滞在する観光者が確認できた。一方で図-4 より、金沢駅から遠い観光地では、12 時台や、13 時以降でゆっくりと滞在する観光者はあまり見られなかった。

(2) アンケートとの組み合わせ

本研究で使用したアンケートでは、観光者属性を尋ねる項目や金沢の総合満足度を 10 段階評価で尋ねる項目を設けている。ここで、観光地での滞在時間が金

キーワード クルーズ観光、アンケート、GPS ロガー、満足度、金沢

連絡先 〒920-1192 石川県金沢市角間町 金沢大学理工学研究域自然科学研究科 TEL 076-234-4914

沢の総合満足度に与える影響を把握するため、数量化Ⅰ類を用いて分析を行った。分析に用いた説明変数とそのレンジを図-5に示す。図-5より、説明変数の中では観光時間は総合満足度に最も影響を与える要因であることが分かる。また、図-6に観光時間のカテゴリースコアを示す。図-6より、近似曲線の決定係数 R^2 の値は大きく、観光時間と金沢の総合満足度の間には高い相関関係があることが明らかとなった。観光地で過ごす時間が長ければ総合満足度も高くなる傾向があると言える。

4. まとめと今後の課題

観光地を金沢駅との距離で2つに分類し、それぞれの場合で時刻と滞在時間の関係の分析を行うと、金沢駅に近い観光地は遅い時刻でもゆっくりと滞在をする傾向が見られた。また、数量化Ⅰ類分析の結果、観光の満足度に影響を与える要因は観光地での滞在時間であり、観光時間が長ければ金沢の満足度も増加する傾向があることが明らかとなった。以上より、効率の良い順番で観光地を周ることで観光地に長時間滞在することが可能であると考ええる。金沢駅に近い観光地では早い時刻に訪れた観光者の滞在が短いため、8～9時台を避け遅い時刻での来訪を促せば、長時間滞在をする観光者が増加する可能性がある。また金沢駅から遠い観光地においては、早い時刻である方が、滞在の程度は長くなることが予想される。

使用したアンケートでは訪れた観光地における満足度を尋ねているが、観光者が満足を得た対象や観光地を訪れた動機などの細かい観光情報を把握することが重要である。寄港地における行動や選好が観光の満足度にどのような影響を与えるかは、アンケートの調査項目を変更しながら繰り返し調査をし、観光者の動態と意識をより高度に掛け合わせることで、様々な角度からの振興策の提案が可能になるであろう。

参考文献

- 1) 国土交通省, 2017年の我が国のクルーズ等の動向(調査結果)について:

http://www.mlit.go.jp/report/press/kaiji02_hh_000236.html

- 2) 国土交通省, 2011～2017年我が国湾港へのクルーズ船の寄港回数及び訪日クルーズ旅客数(確報)に関する報道発表資料を元に作成:

http://www.mlit.go.jp/report/press/kaiji02_hh_000220.html

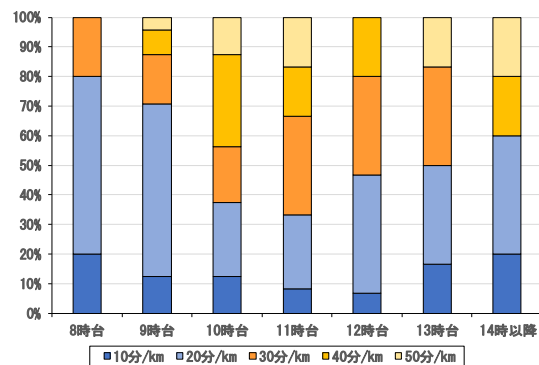


図-3 駅に近い観光地での単位距離当たりの滞在時間のサンプル割合

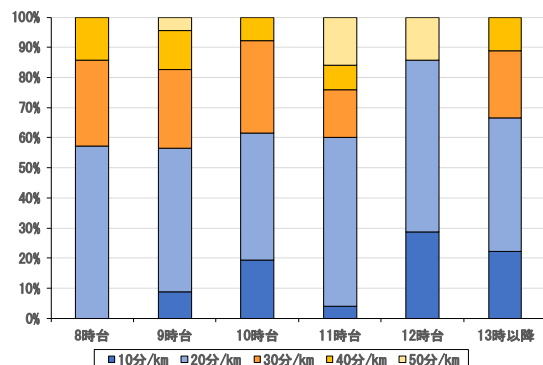


図-4 駅から遠い観光地での単位距離当たりの滞在時間のサンプル割合

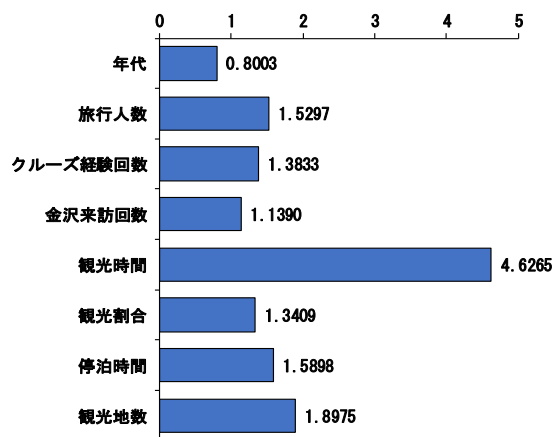


図-5 分析に用いた説明変数とそのレンジ

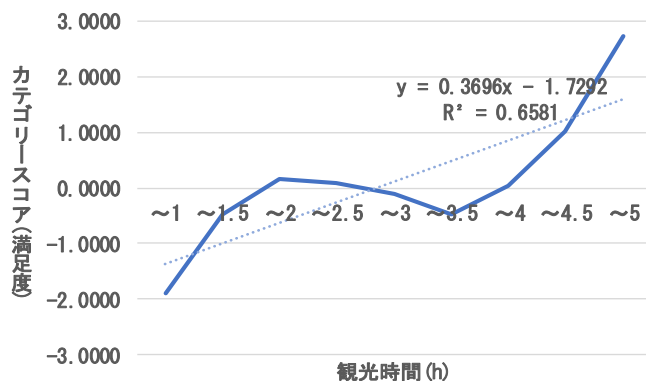


図-6 観光時間のカテゴリースコア

000220.html